

香港革命2019

REBELLION

ON THE FRONTLINES OF HONG KONG'S UPRISING

監督:ソフィー・マクニール/製作:オーストラリア放送協会/2019年/香港/50分

日時 2020年11月19日(木)
19:00~20:20 (18:30開場)

会場 大竹財団会議室
東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

参加費 一般=500円
学生、大竹財団会員=無料
定員15名【要予約】

主催 一般財団法人
大竹財団



Web予約
PC・モバイル共通 <https://bit.ly/2GIVeWT>

LIVING IN A CAGE

ケ | ー | ジ | で | 暮 | ら | す | 人 | 々

監督:フィリップ・コーカール/製作:ジャーニーマンピクチャーズ/2018年/香港/25分



香港革命2019

「香港は僕たちの故郷です。自由のため闘うのが僕の使命。命尽きるまであきらめません」。デモに参加する若者たちは、ためらうことなく中国と戦う覚悟を語ります。それは、民主主義と自由のためならどんな手段もいとわないという強い決意です。香港を乗っ取るようとしている中国共産党に全力で抵抗するというのです。無謀ともいえる彼らの活動は、しかし香港の多くの市民から支持を得て、大きな力を持ち始めています。ネットでつながる彼らは暗号化されたアプリを巧みに駆使して、デモを組織しています。人権が踏みじられ、リーダーが投獄されても、彼らは前進し続けています。「捕まるのは怖くない？」という問いに、活動家のメンバーは平然と答えます。「自由を奪われることのほうが怖いです。中国に支配され自由を失うことのほうが」。彼らは、中国に服従する以外の生き方を選ぼうとしています。そして香港での運動が、中国全土へ影響を与えることを望んでいます。

香港は、市場原理によって金持ちが異様なほど裕福になった街だ。20㎡のアパートが、約630万香港ドル、日本円で8千700万円以上の価格で売買されている現状は、格差社会をますます深刻化している。香港政府は、貧困層の生活向上を約束したにもかかわらず、むしろ貧困者の数は増加し続け、今や5人に1人が貧困ラインの月4200香港ドル(約54600円)に満たない収入で生活している。ケージのような狭い場所で、極限の生活を送っている人は20万人に上るといわれている。現在、家計を圧迫する家賃と食品価格の上昇が、多くの香港市民を苦しめているという。このような極度の格差社会と、富裕層が権力を持つ香港社会の実態は、民主社会と大きくかけ離れている。香港の住宅事情は、民主化運動に火がつく市民の大きな不満の根本的な原因のひとつと言えるだろう。



上映会のご予約・お問い合わせ 一般財団法人 大竹財団

📍 東京都中央区京橋1-1-5 セントラルビル11階
JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)、
東京メトロ京橋駅7出口から徒歩3分、東京メトロ日本橋駅B3出口から徒歩4分

🌐 <https://ohdake-foundation.org> ☎ 03-3272-3900



スマートフォンのQRコードアプリで読み取ると、現在地から会場までのアクセス方法が検索できます

